

きよじん
やさしい巨人



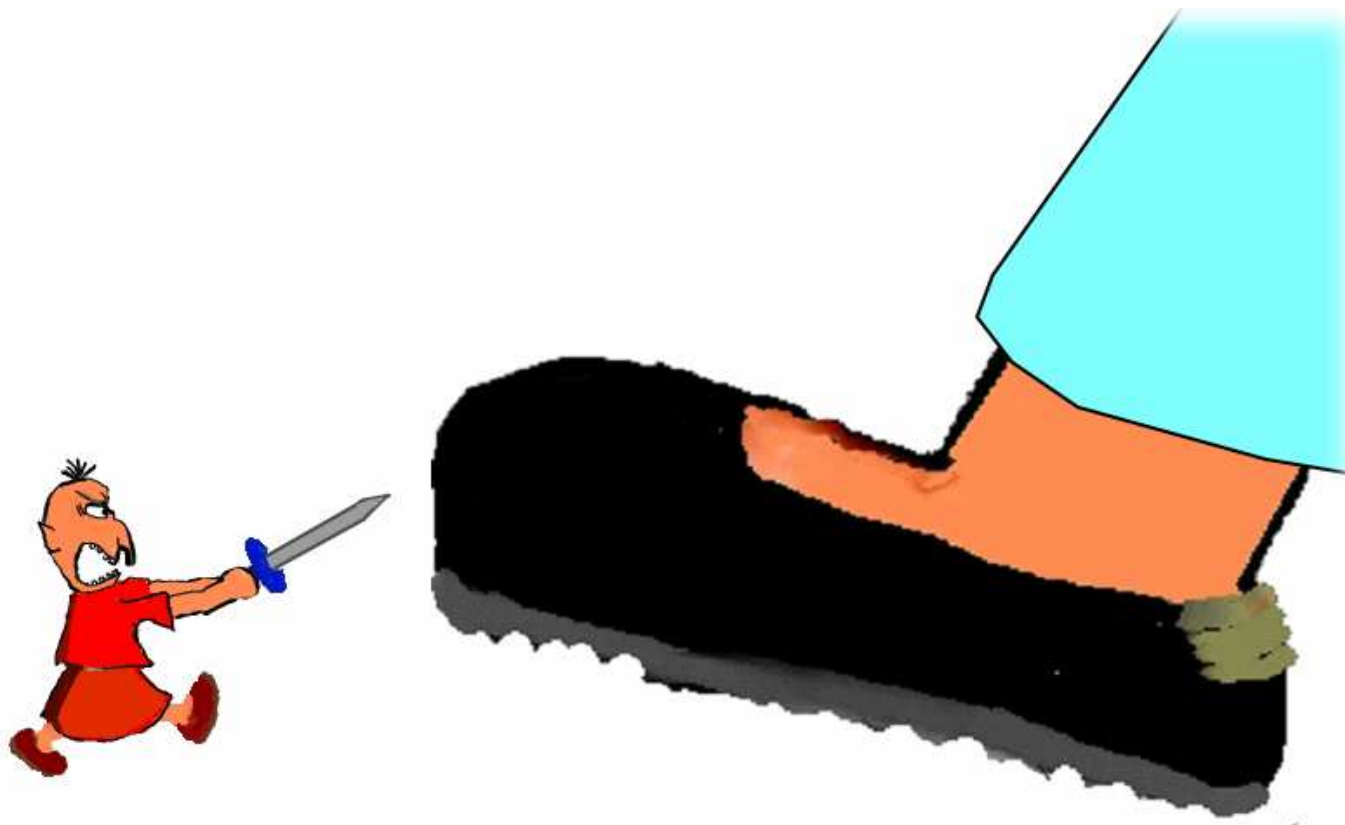
とうごう じゅん

ひろ～い^{うちゅう}宇宙の、ある^{ほし}星に、とっても^{おお}大きくて、
強い^{つよ}巨人^{きょじん}がいました。

怖^{こわ}そうに^み見えるけど、本当^{ほんとう}はすっごく^{やさ}優しいん
です。人々^{ひとびと}をととても^{あい}愛しているの^じで、自分^{じぶん}の力^{ちから}
を^い生かして、世界^{せかい}中^{じゅう}の人々^{ひとびと}を^{まも}守りたいと思^{おも}って
います。

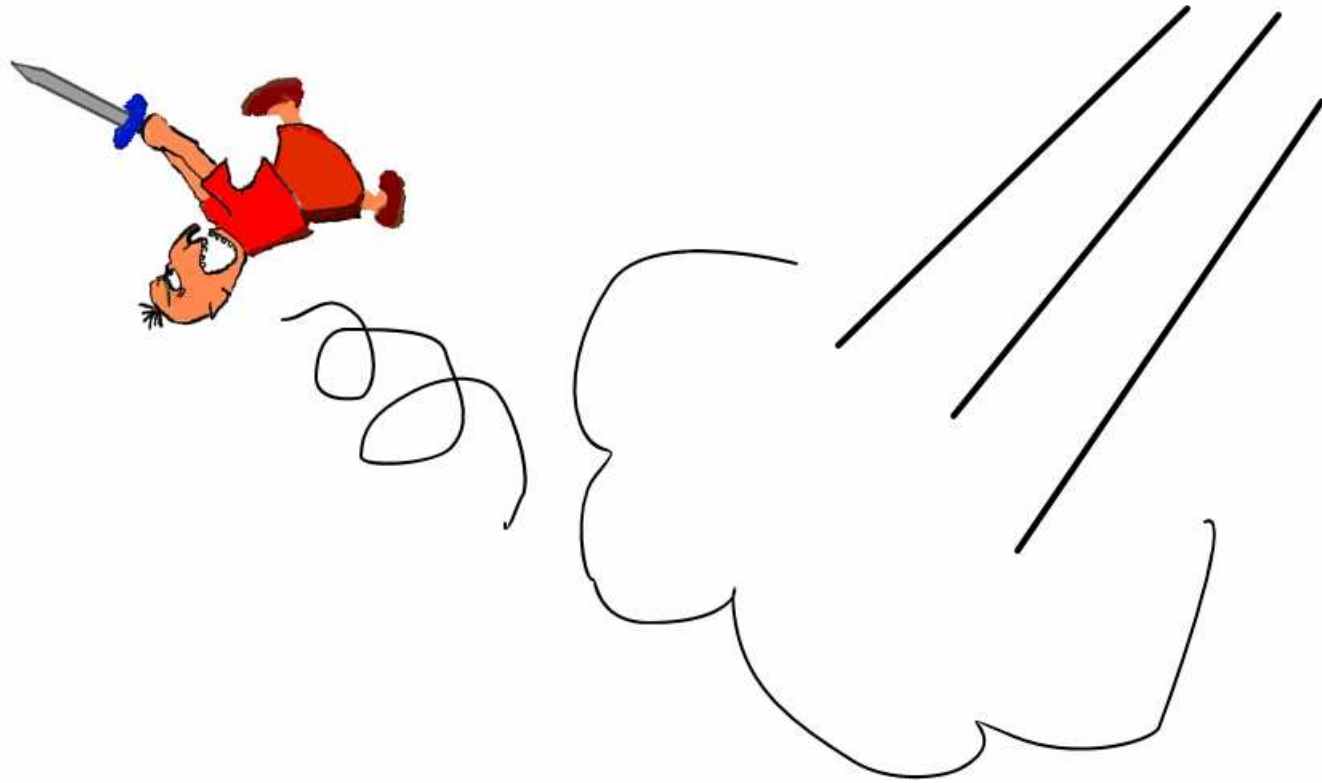


ある日、巨人さんが歩いていると、足がなにやらちくちくします。一みると、悪魔のような顔の小さな人がいました。



彼が針のように小さい刀で足をつついていたのです。

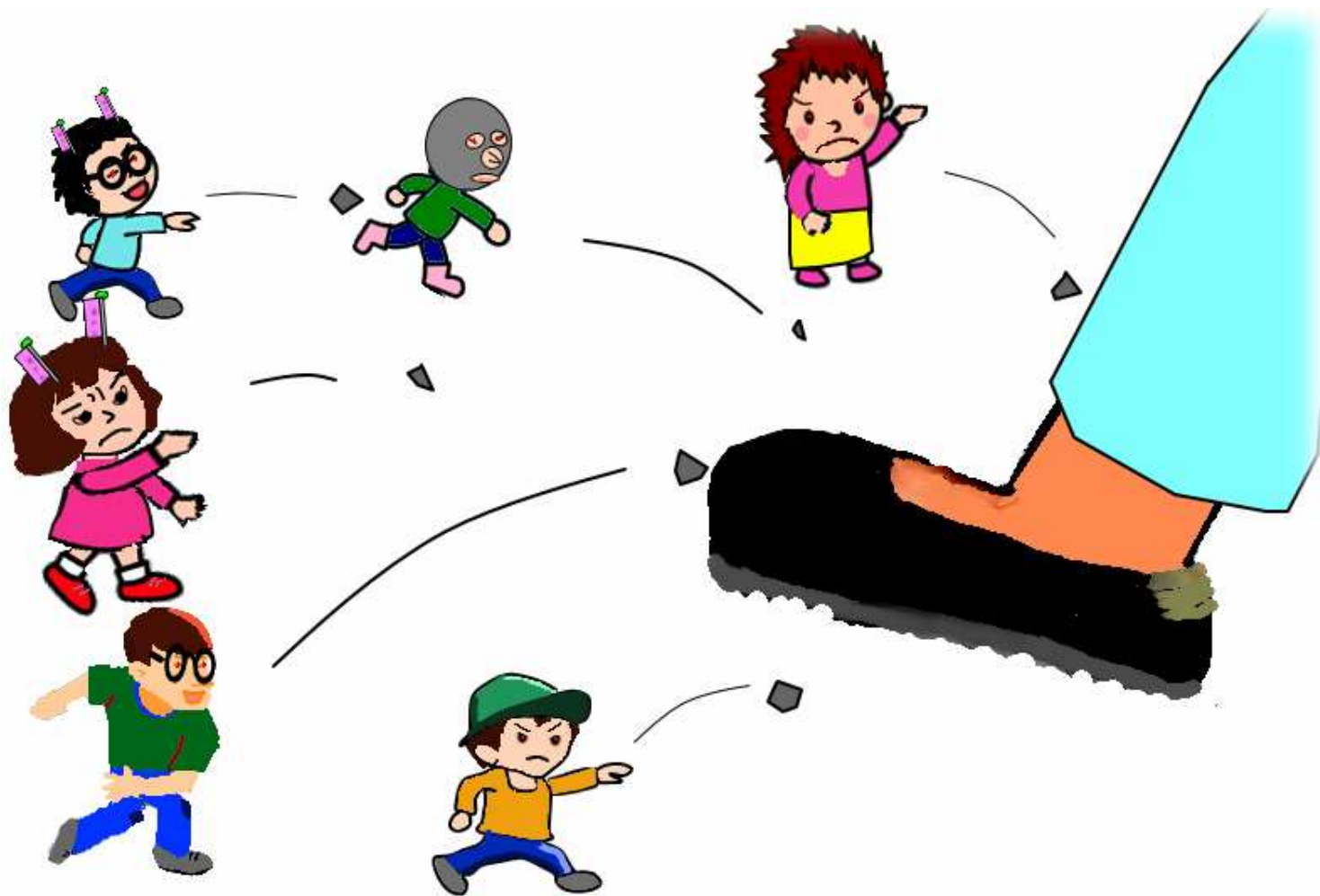
「こいつ、悪人だな！」^{あくにん} 巨人^{きょじん}さんは、台風^{たいふう}のような息^{いき}をその人^{ひと}に吹き付けました。—赤い服^{あか}の小さな人^{ちい}はどこかへ吹き飛ば^とされました。



「よっしゃ、^{せかい}世界のために、^{わる}悪い奴を^{ひとり}一人やっつけた。これで^{せかい}世界は^{あんしん}安心だ！」^{きょじん}巨人さんは、ニッコリ！



再び、巨人さんが歩いていると、また足が痛くなりました。一みると、悪魔のような顔の小さな人々が数人います。巨人に石をぶつけているのです。



「こいつらも、悪人だな」
怒った巨人さんは、空から、コブシを人々の真ん中にたたきつけました。



「よっしゃ、これで悪い奴らをやっつけた。これで世界はもっと安全な場所になる！」巨人さんは、再び世界を守れて大満足！
巨人さんは、ニコリしましたが、顔には汗をかいています。



巨人さんがさらに歩いていくと、今度は、体のあちこちが痛くなりました。

まあ、大変！ 悪魔のような顔をした人々が、そこらじゅう、数え切れないほど大勢います。火がついた槍で、巨人さんを狙っていたり、刀で巨人さんをさしたり、石を投げたり、飛行機で体当たりしようとしているのです。



巨人^{きょじん}さんは、もうカンカン！

「この悪人^{あくにん}どもめ！ 全部^{ぜんぶ}まとめて、やっつけてやる！！ 世界^{せかい}の平和^{へいわ}と安全^{あんぜん}のために！！」



—そのとき、^{あか}赤い^{ふく}服の^{ひと}人が、^{そら}空からドスンと^{おち}落ちてきました。



あれ？ ^{さいしょ}最初に、^{きょじん}巨人さんに^{いき}息で^{ふき}吹き飛ばされた^{ひと}人です。

「あの巨人をやっつけるぞ！」 赤い服の人が、巨人さんに向かって駆け出そうとしています。



赤い服の人、
ちょっとまって!

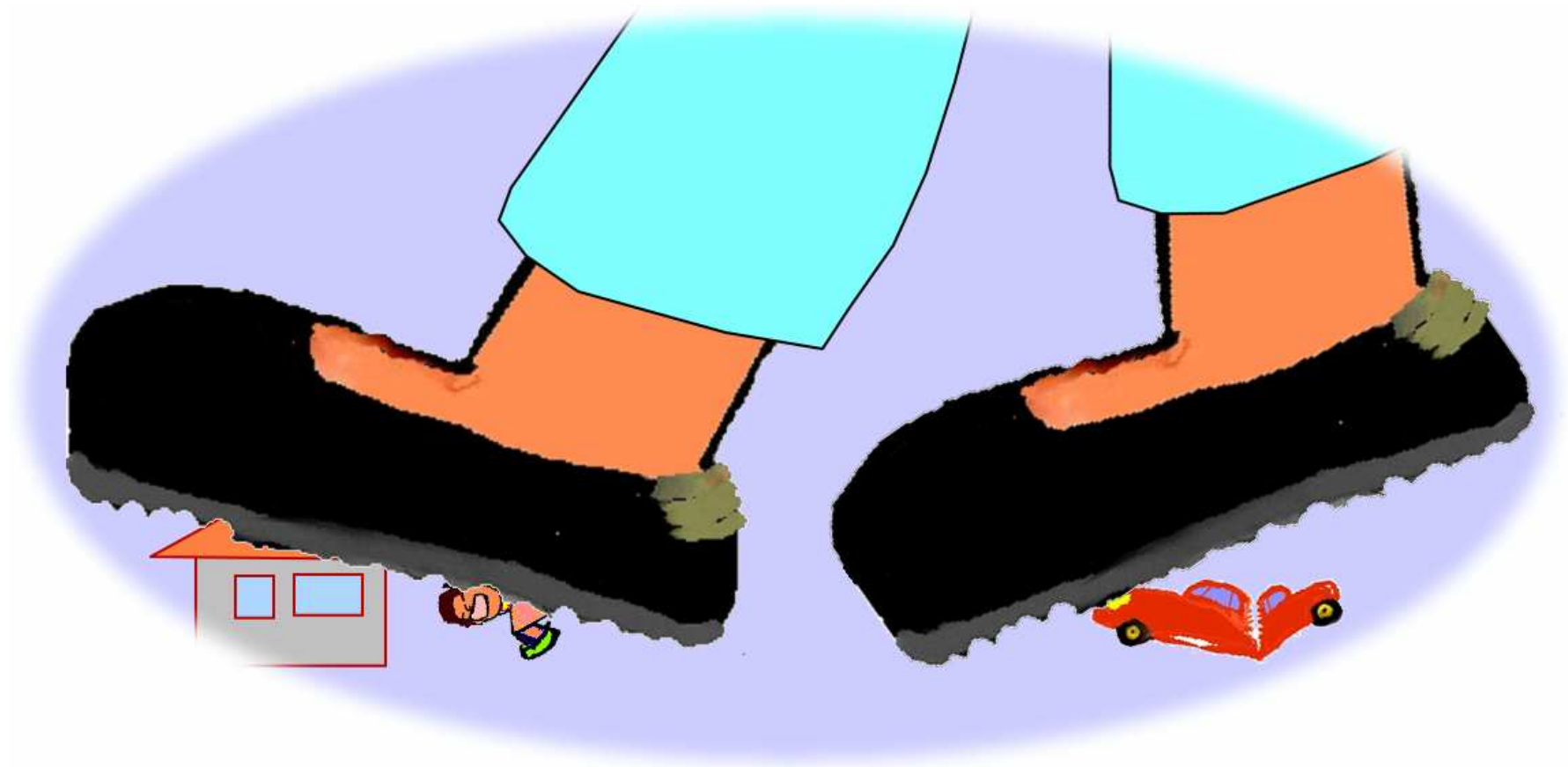
こちらを振り向いた顔は、意外に優しい顔でした。

「どうしてあなたは、^{きょじん}巨人さんを^{こうげき}攻撃するの？」

「え？ …^{きみ}君はあの^{きょじん}巨人のことを知らないのかい？ …それはね、あいつが^{おれ}俺の^{むすめ}娘を、^ふ踏み^{ころ}殺したからなんだよ」



…な、なんと巨人さんは大きすぎて、歩くときに、車や家や子どもたちを踏みつぶしても、気づかなかつたみたいなんです。



むろん、ワザとしたものではありません。人々が自分よりずっと小さいので、見えなかつただけ。…でも、いくら見えなかつたからといっても、これじゃあ、人々が怒るのは当たり前ですね！

あ、大変！！

巨人さんは、子どもや家を踏みつぶされて怒っている人々を、悪人だと勘違いしちゃっています。



悪人どもめ、みなごろ皆殺しだ！

このままでは、大勢の人々が殺されちゃいます！！ 巨人さんに、みんなで精一杯叫んで、教えてあげなきゃ！！

お〜〜〜い、優しい巨人さ〜〜〜ん！

おこ
怒こっている人は、

あくにん
悪人あくにんじゃあ、

ないんですよ！

あとがき

善悪という言葉／考え方には、多くの錯覚を生じさせる傾向があります。そして、それらの錯覚は何千年もの間、様々な悲劇を生み、幾億もの人々を犠牲として来ました。（詳細は、弊著「善悪中毒」リベルタ出版をご参照ください）。そうした悲劇を地球上から無くすことを目的に、善悪を巡る錯覚の一つをテーマとして、本絵本を執筆しました。もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、商業出版を除いて自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org